



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	家庭役割の分担と遂行に対する夫と妻の認識 : 料理をめぐる夫妻ペア調査の結果報告
Author(s)	孫, 詩彥
Citation	教育福祉研究, 26, 1-12
Issue Date	2022-10-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/87043
Type	departmental bulletin paper
File Information	010-0919-6226-26.pdf



家庭役割の分担と遂行に対する夫と妻の認識 —料理をめぐる夫妻ペア調査の結果報告—

孫 詩 彥

1. 調査目的

「料理役割の分担と遂行に関する調査」(以下「本調査」)は、家事や育児などに関する、夫妻の役割分担と調整を検討するための実証研究の一環として実施した。具体的にこの調査は、料理役割に着目し、夫妻のそれぞれが捉えている家事の量と質、そしてその分担・遂行・調整に対する認識をアンケートで調べ、夫妻間の相違(相違の有無と内実)を明らかにすることが目的である。本稿は、この調査結果の報告と、結果に基づく簡単な考察を行うものである。詳細な検討や議論は、別紙に譲りたい。以下、本調査に至った経緯と位置づけを簡単に説明する。

孫(2020)は、20組の夫妻を対象に、家事育児の分担と調整のプロセスを分析した結果、夫妻間の分担が偏るだけではなく、偏った形で役割分担が固定してしまい、分担をめぐる夫妻間の交渉・調整が低調になることを指摘した。こうした「役割分担の硬直化」により、夫妻間で分担を柔軟に調整することができず、偏った分担が続く一方、予期せぬ出来事が起きた時も、対応できなくなる可能性が生じてしまう(孫2022)。夫妻の役割分担を収入や時間などの規定要因で説明するこれまでの研究に対して、孫の研究は役割分担と調整のプロセスに着目したことで、偏った役割分担の根本的な問題点にアプローチした。

したがって孫は、結果として夫妻が半々で家事を「平等」に分担することよりも、状況に合わせて夫妻で役割分担の互換と代替ができるよう、柔軟に調整できる状態の重要性を主張した。なおこの状態は、夫と妻の間だけではなく、ほかの家族

成員やベビーシッター、家政業者などと家庭役割を分かち合うとき、すなわち二者間で役割を分担・遂行・調整するときにも重要な基盤を成している。しかし、このように交渉や調整を行う際の基盤となる、二人がそれぞれどのような認識を持ち、交渉と調整に臨んでいるかは、これまでの役割分担研究でほとんど検討されていない。

以上に基づき本調査は、料理役割を例として取り上げ、夫妻双方に対するアンケート調査によって、夫と妻のそれぞれが考えている料理役割とはいかなるものか、互いに料理分担の状況をどのように認識しているかなどを調べる。この調査は夫妻の役割分担を検討する土台を解明し、全体的な傾向を統計的に把握する基礎作業である。

2. 調査概要

(1) 調査対象と実施方法

本調査は、北海道X市内の保育施設(うち保育所5カ所、認定こども園2カ所)の協力を得て実施した。調査は子どもを保育施設に通わせている二人親家庭を対象にしている。調査は2021年12月に実施し、保育施設経由で対象となる家庭にアンケート調査の依頼書一式を配布し、夫と妻の双方に回答を依頼した。

データの回収方法は、調査依頼書に記載するQRコードを読み取り、夫妻各自でオンライン回答を送信する方法と、夫妻それぞれが紙のアンケート用紙に回答を記入し、封筒に入れて保育施設に提出する方法の二つである。データの回収方法は施設の都合等で異なる場合がある。また、夫と妻は異なる方法で回答することも可能である。

同じ家庭の夫と妻であることが分かるよう、す

すべての調査依頼書に独立した6桁の番号が振られている。アンケートに回答する時点で依頼書の番号を記入してもらい、同じ番号の男性回答・女性回答を一組の夫妻票として判断する。なお、この番号は夫妻回答を組合せるためのみに使うもので、個人が特定されることはない。

調査は料理役割の分担と遂行状況、料理に対する認識や考え、料理分担の調整について調べた。回答者自身の料理遂行のみならず、パートナーの遂行状況や夫妻間の分担状況についても設問する。これまでのペアデータを集めた調査の質問項目に関して、ワーディングが微妙に異なり、選択肢が一致しないため、同一項目だと判断しにくいという指摘（田中 2021）に対して、本調査は同じワーディングで同じ選択肢になるように作成している。これによって夫妻の回答を組合せた分析を可能にした。詳細は資料「調査票設問」で示している。

調査は合計 425 世帯（男女合計 850 名）に調査依頼の書類を配布し、女性 146 名、男性 117 名の回答を得た。そのうち、同一家庭の夫妻双方からの回答が 106 組で、ペアでの回収率は 25% である。本稿では、この 106 組の回答を中心に調査結果を報告する。

（2）分析対象の概要

本報告の分析対象は、全体的に見て共働きで、核家族の形で子育てしている世帯が多い。現在の世帯構成について、106 組のうち、「夫妻＋子ども」は 96 組（90%）であり、続いて祖父母などほかの人と同居する世帯が 8 組、夫が単身赴任している世帯が 2 組である。

子どもの数について、2 人育てている世帯が最も多く、43 組（41%）に達している。子ども 1 人の 37 組と合わせ、75% の世帯が 1-2 人の子どもを育てている。最も子ども数が多い 2 組では、5 人の子どもを育てている。また、第 1 子の年齢について、12 歳未満の世帯が 95% を超えている。このうち、27 世帯では第 1 子が 3 歳未満の乳幼児であり、第 1 子が 4 歳-6 歳の夫妻は 32 組である。

現在の勤務状況に関して、男性（夫）はすべて

アンケートに答えている時点で働いている。そのうち出勤日の半分以上が職場勤務の男性（夫）は 102 名（69%）である。職場勤務・在宅勤務を合わせて女性（妻）の勤務率は 79% であり、ほかに 6 名が産休育休中、16 名が勤務していないと回答した。さらに、夫妻の回答を組合せてみると、「夫妻とも出勤日の半分以上が職場勤務」が 75 組、「夫職場勤務＋妻在宅勤務」が 5 組、「妻職場勤務＋夫在宅勤務」が 4 組という、夫と妻が在宅か職場のどちらかの形で勤務している共働き世帯が全体の 79% を占めている。

3. 料理役割の分担・遂行・調整に対する夫妻の異なる認識

結論を端的に述べると、料理だけに着目してみても、日々の生活を共にする夫と妻が考えている役割の量と質、それぞれが認識している役割の分担・遂行・調整が一致するものではない。場合によっては大きな差が見られることもある。夫妻の役割分担を検討する先行研究の多くは、夫妻の片方（妻/女性）だけを対象にしているが、本調査の結果は、こうした調査方法では役割分担の一側面しか捉えていないことを示唆した。一方、夫妻の認識に不一致があることを当然の前提としながら、これからは具体的にどのようなところで、いかなる不一致が調査で見えてきたかを中心に報告する。

（1）料理役割の分担状況

この節ではまず、夫と妻それぞれの認識において、料理役割がいかに分担されているか、を示していく。

1) 自分は料理をよく分担しているか

自分とパートナーの間でいうと、回答者が料理役割をよく分担しているかほかどうかについて聞いたところ、圧倒的に女性（妻）が分担していると自認する割合が高く、全体的に料理役割が女性中心に行われていることが分かった（図 1-1）。

89% 以上の女性が肯定的な答え（そう思う・どちらかそう思う）を示し、自分が料理役割を担っていると主張している。否定的な答えを示した男

性 69 名のうち、31 名（45％）が「どちらかそう
 わない」という比較的曖昧な言い方をしている
 ことと比べ、女性は「そう思う」（67 名・74％）と
 明確に自分の役割分担を主張している様子が見
 える。

一方、夫妻の回答を組合せてみると、夫が「自
 分が料理役割をよく分担していると思わない」+
 妻が「自分が料理役割をよく分担していると思う」
 のは 66 組で、妻が「自分が料理役割をよく分担し
 ていると思わない」+夫が「自分が料理役割をよ
 く分担していると思う」のは 12 組である（表 1-
 1）。夫妻の片方を中心に料理役割がなされると夫
 妻とも認識しているこちらの 78 組は全体の 74％
 を占めている。これに対して、夫妻とも自分がよ
 く料理役割を分担していると報告したのは 25 組
 で、いずれも分担していないのが 3 組である。

2）実際いつも遂行している料理の役割項目

それでは回答者が料理役割を分担していると答
 え、実際どのような役割項目を遂行しているかに
 ついて、20 の小項目について調べた。図 1-2 は夫
 妻の回答を組合せて、「夫○妻○」夫も妻もやっ
 ている項目、「夫×妻×」夫も妻もやっていない項
 目、「夫○妻×」夫だけがやっている項目、「夫×妻○」

妻だけがやっている項目で示した。

この図によると、夫妻ともあまりやっていない
 （もしくは手を抜いている・省いている）のは「調
 理家電管理」「調理器具管理」と「食器拭き」であ
 る。ほとんど夫が担当し、妻にはあまりやらせて
 いないのはやはり食器の片付け・洗浄である。こ
 れに対して妻は献立を考えることから買いもの、
 調理するまでの一連の作業、そして日常の調理家
 電や器具の管理とメンテナンスを中心的に担うこ
 とが多い。

これは、妻が調理した代わりに夫が片付けをす
 るという形の「分担」として位置づけられる可能
 性がある。一方、帰宅時間の遅い人は調理までの
 作業より食事後の作業を担うほうが時間の面でよ
 り現実的であることも考えられる。

しかし、このような分担の形で、休日など夫に
 時間的な余裕があっても、これまで妻が中心に
 担ってきた役割を分担しようとしても、知識的に
 （ex. 冷蔵庫の在庫で献立を考えることや使いた
 い器具・調味料等の場所を把握することなど）で
 きないかもしれない。こういった点については、
 さらなる調査で検証・検討する必要がある。

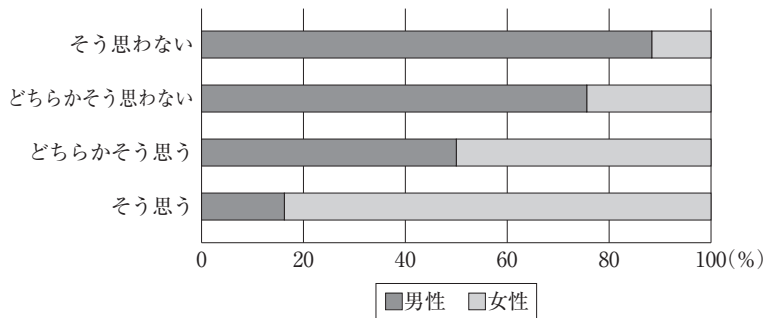


図 1-1 自分はよく分担しているほうだと思うか

表 1-1 夫妻の組合せで見る料理役割分担（組）

妻 \ 夫	そう思う	どちらかそう思う	どちらかそう思わない	そう思わない
そう思う	3	15	21	28
どちらかそう思う	4	3	10	7
どちらかそう思わない	3	5	0	2
そう思わない	3	1	0	1

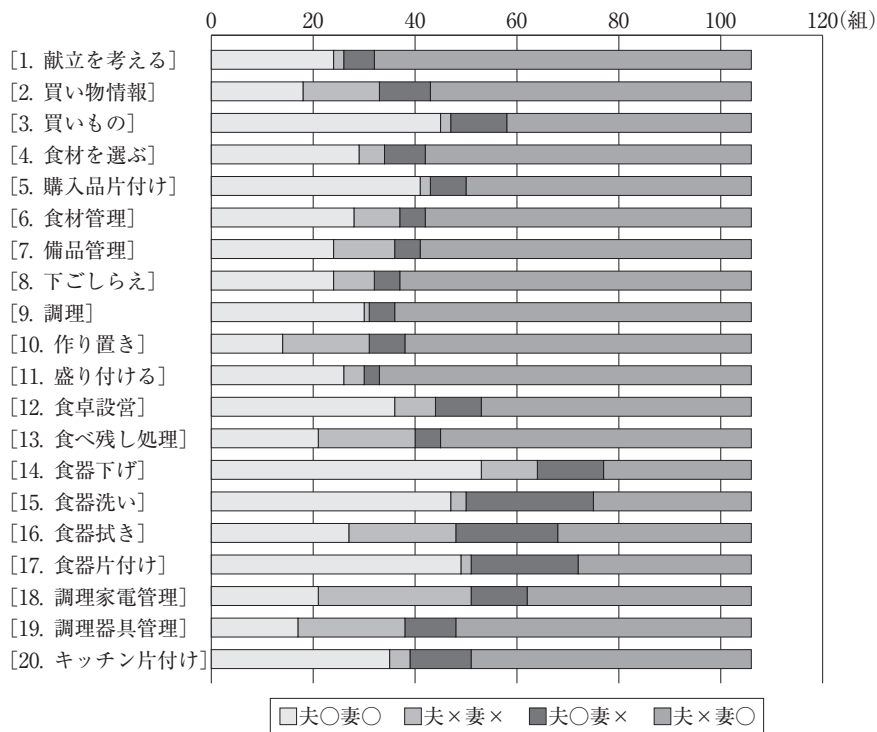


図 1-2 夫妻の組合せで見る「実際いつもやっている項目」(組)

3) 三食の分担状況

さらに平日と休日に、朝食・昼食・夕食の分担がどのようなになっているか、夫と妻がそれぞれの認識を調べた。図 1-3 では、三食のうち、朝食と昼食は半々で分担、各自用意、もしくは夫妻のどちらも作らないことが多く、これは夕食より、朝食と昼食を手軽に・自由に済ませている可能性が考えられる。また、平日より、休日のほうが夫妻で分かち合って料理を作る割合が高くなる。

そして夫と妻の回答を組合せてみると、分担状況に対する夫妻間の認識の不一致が目立つ。「夫：自分担当、妻：相手担当」「妻：自分担当、夫：相手担当」「夫妻：半々」「夫妻：各自」「夫妻：作らない」という五つの夫妻回答組合せパターンを一致回答とみなす場合は、平日と休日の三食分担状況に対する夫妻回答の一致率は、図 1-4 が示した通り、6-7 割程度にとどまっている。そのうち、平日夕食の一致率が最も高いことは、この分担が夫妻間で一番明確になっているからだと考えられる。ここでは、夫と妻がそれぞれ、何を基準

に「自分/相手担当」「半々」「各自」などの分担を判断しているか、さらなる調査と検討の必要がある。

4) 子どもの食事作り

本調査の回答者は、子どものうち少なくとも一人が保育施設を利用する子育て世帯である。したがって、子どもには離乳食など、大人と別に食事を用意することの有無を夫妻双方に確認した。その結果、夫妻双方が「作っていない」と答えたのは 80 組で、夫妻とも作っていると答えたのは 16 組である。作っていると答えた 16 組のうち、13 組は夫妻一致して「妻が作っている」と答え、1 組は「夫が作っている」ということである。ところが、残りの 2 組は、夫が「ほとんど相手」妻が「半々」と答え、もしくは妻が「ほとんど自分」夫が「半々」と答えているように、分担の程度に関する相違が見られる。

一方、夫妻の回答が一致しない 10 組のうち、夫が「すべて/ほとんど相手」妻が「作っていない」と回答したのは 6 組、夫が「作っていない」妻が

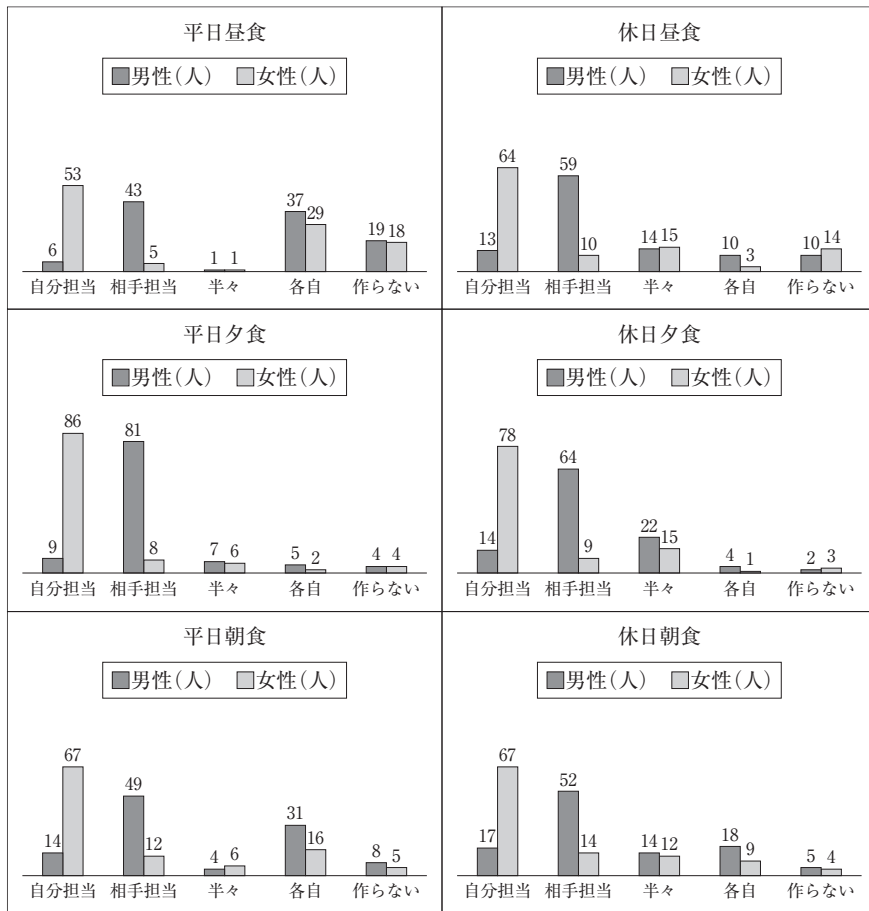


図 1-3 平日・休日三食の分担状況

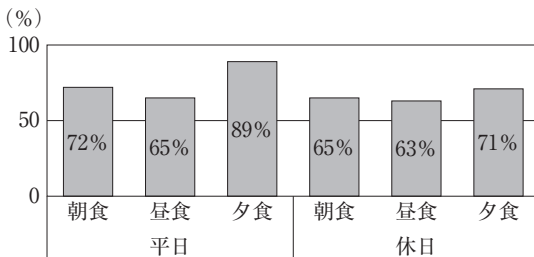


図 1-4 三食分担：夫妻回答一致率

「すべて/ほとんど自分」と回答したのは4組である。ここでは、夫妻が認識している事実（子どもに大人と別の食事を作っているか否か）に相違があることが分かった。つまり、同じ家庭で暮らしていても、自分が関わっていないことについて、認識しない可能性、ならびに同じことに対する夫妻の評価の基準が異なる可能性が分かった。

（２）料理役割の量と質に対する認識

この節では、調査協力者たちが「料理役割」の質と量をどのように認識しているかを整理し、料理役割の分担を検討する時の土台を明らかにしておく。

１）料理に含まれる項目

前節では、具体的にどのような料理項目をいつも遂行しているかについて、調査結果を示したが、ここでは夫と妻が思う「料理役割に含まれる項目」を整理する。夫妻とも「調理」「下ごしらえ」「献立を考える」ことが料理役割に含むと考えている世帯が最も多いことが分かった。一方、図 1-2 が示しているほど、夫たちを中心に担われている食器の片付け・洗浄はほかの役割項目と比べてそれほど認識されていないことも見えてきた（図 2-1）。これは、夫たちの役割分担を夫妻とも低く評

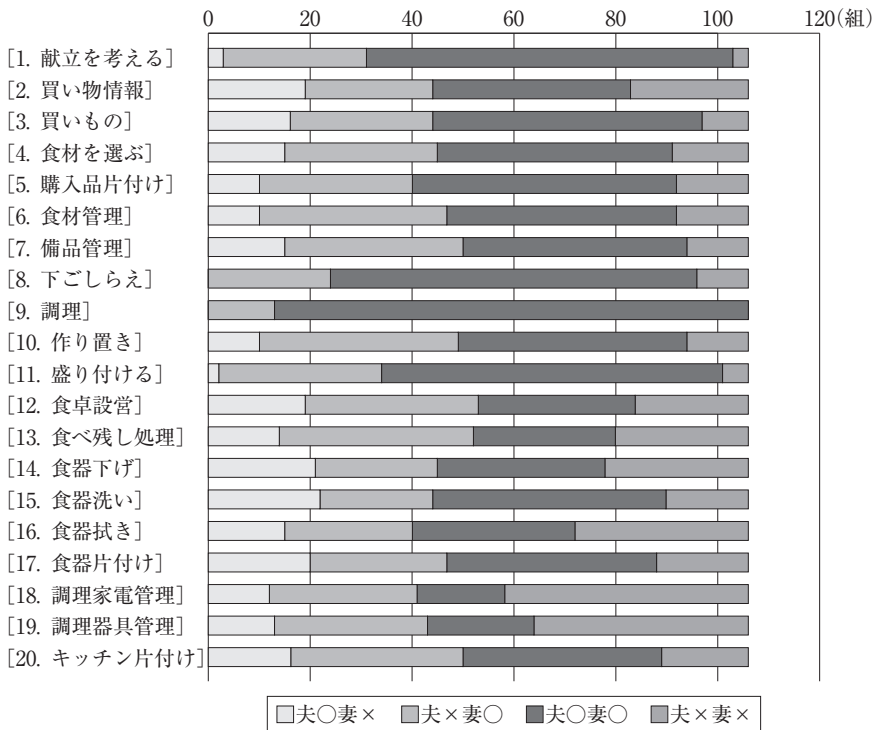


図 2-1 夫妻の組合せでみる「料理役割に含まれると思う項目」(組)

価してしまう可能性をもたらしている。

2) 料理の質に対する考え

本調査では、手料理と冷凍・レトルト食品に対する夫妻の考え方を調べている。家事や仕事などで忙しい日でも、出来合いのお惣菜や弁当より、家庭内で作る手料理が好ましいと思うか、そして家庭での食事に冷凍・レトルト食品を出すことを「手抜き」だと思うかで設問した。

その結果、手料理に関して主に妻が料理を担当している 66 組で、夫妻とも手料理を好ましく思うのは 9 組 (14%) で、妻が夫より手料理を好ましく思う世帯 (妻：肯定回答、夫：中立/否定回答。妻：中立回答、夫：否定回答) が 40 組 61% を占めている。主に夫が料理を担当する 12 組では、夫妻とも手料理を好ましく思う世帯が 1 つもなく、夫が妻より好ましく思う世帯 (夫：肯定回答、妻：中立/否定回答。夫：中立回答、妻：否定回答) が 9 組 (75%) である。夫妻とも自分が料理役割をよく分担している 25 組では、夫妻とも肯定、もし

くは片方が手料理を好ましく思う世帯が 20 組 (80%) である。これを通して、比較的に妻 (女性) が夫 (男性) より手料理を好ましく思う一方、料理役割を担当することの有無と手料理に対する考えとの相関関係が見えてきた。

冷凍・レトルト食品について、主に妻が料理を担当している 66 組で、30% の世帯は夫妻とも冷凍・レトルト食品が「手抜き」ではないと思っている。しかし夫が中立や否定的な態度を示しながら、妻は冷凍・レトルト食品を「手抜き」だと思う世帯が 39 組 (59%) で、妻たちの厳しい考え方が見えてきた。これは夫妻とも料理役割を分担している 25 世帯のなかでも、冷凍・レトルト食品に対する妻たちの「手抜き」意識が夫より強いのは 18 組 (72%) である。

以上のように、手料理に対する選考や冷凍・レトルト食品に対する「手抜き」意識で、夫と妻が考えている料理の質に相違があることを示した。妻たちは夫たちよりも手料理を好ましく思い、冷

凍・レトルト食品が「手抜き」だと思っている。一方、こうした考えや態度は、料理役割を実際に担っているかどうかとも関連している。この相関関係の詳細については、さらなる分析が必要である。

3) 食事作りの所要時間

続いては、回答者が食事を作る時の所要時間とパートナーが作る時の見積もり時間を確認する。調査では、自分が料理役割をよく分担していると回答した方に、平日の夜に、自宅ですべて食べるような家族全員分の食事を用意するための時間を設問し、そうではない方にパートナーが夕食を用意する時間を見積もってもらった。全体的に30分から1時間という回答が最も多いものの、夫妻の回答を組合せると実際の調理時間と見積時間に差が見えてきた(表2-1、2-2)。

灰色セルの合計で夫妻回答の一致率を見ると、おおよその調理時間について夫妻の認識が一致しているのは、主に妻が料理を担当する世帯では32組(一致率48%)、主に夫が料理担当の世帯では4組(一致率33%)である。調理時間に対する夫妻の認識の一致率が比較的に低い。

不一致の内実を見ると、主に妻が料理担当の場合、夫が思う時間>実際妻の調理時間が27組で41%であり、主に夫が料理担当の場合、妻が思う時間>実際夫の調理時間が4組で33%である。すなわち、普段あまり調理に関わらない人が、実際の調理時間を高く見積もる可能性がある。この誤った見積により、「料理を分担したいが自分にはそれほど時間が無い」と判断して料理役割の分担を控えるかもしれない。

(3) 料理役割を担うことに対する考え

前節では、夫と妻が料理の質と量に対する考え方の相違が示され、とりわけ片方が手料理にこだわったり冷凍・レトルト食品を手抜きだと思ったりするような、相手より料理の質を高く求めたりすることで、料理をすることの大変さも片方だけ感じる可能性が考えられる。また、逆から言えば、料理が好きだからこだわって作っている可能性も考えられる。この節では、夫と妻が料理をすることに対する態度と料理役割を担うことの大変さについて報告する。

1) 料理を作ることが好きか

調査では、自分が料理を主に分担していると報

表2-1 夫妻の組合せでみる平日夕食の調理時間：主に妻が料理担当の世帯(組)

妻 \ 夫	30分以下	30分-1時間	1時間-1時間半	1時間半-2時間	2時間以上
30分以下	2	4	0	1	0
30分-1時間	2	19	13	4	0
1時間-1時間半	0	5	10	4	0
1時間半-2時間	0	0	0	1	1
2時間以上	0	0	0	0	0

表2-2 夫妻の組合せでみる平日夕食の調理時間：主に夫が料理担当の世帯(組)

妻 \ 夫	30分以下	30分-1時間	1時間-1時間半	1時間半-2時間	2時間以上
30分以下	0	1	0	0	0
30分-1時間	1	3	3	0	0
1時間-1時間半	0	0	1	0	0
1時間半-2時間	0	0	2	0	0
2時間以上	0	1	0	0	0

告した回答者に、料理を作ることが好きかと設問し、そうではない方には、パートナーが料理を作ることが好きだと思うかどうかで設問した。「好き」、「どちらか好き」を肯定回答とみなし、「好きではない」、「どちらか好きではない」を否定回答とみなし、「どちらともいえない」と中立回答とみなした。

夫妻の回答を組合せた結果、主に妻が料理担当の66組で、妻が料理に対する態度と、夫が思う妻の料理に対する態度が一致（夫妻とも肯定、中立、もしくは否定回答をした世帯）しているのは44組（67%）である（表3-1）。主に夫が料理担当の12組で夫の料理に対する態度をめぐる夫妻の認識は、一致率が67%（8組）である（表3-2）。

一方、料理作りが好きかどうかで見ると、主に妻が料理担当の世帯で、好きで料理を作っている妻の割合が45%である。主に夫が料理担当の世帯で、夫は料理が好きでやっている割合が83%と比較的に高いことが分かった。夫妻とも料理を作っている世帯と合わせ、妻が料理を作っている91組のうち、料理作りが好きではない妻の割合は56%である。これより見えるのは、料理を分担する夫は、自分の趣味でやっている可能性が大きいものに対して、妻たちは嫌いであってもやらざるを得ない可能性である。

表 3-1 夫妻の組合せでみる料理作りに対する態度 (好きかどうか)：主に妻が料理担当の世帯 (組)

妻 \ 夫	(妻が) 肯定	(妻が) 中立	(妻が) 否定
肯定	24	4	2
中立	4	11	7
否定	2	3	9

表 3-2 夫妻の組合せでみる料理作りに対する態度 (好きかどうか)：主に夫が料理担当の世帯 (組)

妻 \ 夫	肯定	中立	否定
(夫が) 肯定	7	1	0
(夫が) 中立	0	1	0
(夫が) 否定	3	0	0

2) 毎日料理を作ることの大変さ

料理役割の特徴の一つは、毎日行うルーティンな家庭役割であり、決まった時間にやらないといけないことがあげられる。調査では、毎日一定の時間をかけて料理を作ることが大変に思っているかどうか、もしくはパートナーが毎日料理を作ることの大変さを、回答者に答えてもらった。

その結果、主に妻が料理を担当する66組では、夫妻とも妻が大変だと肯定的に答えたのは60組で、夫妻間の一致率が高く、大変さも認識されている（表3-3）。一方、主に夫が料理を担当する12組では、夫妻とも夫の大変さを認識したのは5組（42%）である（表3-4）。このほか、夫が「どちらともいえない」と中立的な回答をしながら、妻は夫が大変だと答えた5世帯（42%）が目立つ。料理は主に女性（妻）の役割だと思われるなか、男性（夫）が分担するときの大変さもより高く見積もられる可能性が考えられる。

一方、夫妻とも料理をよく分担している25組のうち、自分が大変だと主張する18組の夫妻がいると同時に、夫妻のいずれもそれほど大変ではないと答えたのが6組（24%）である。この意味で、夫妻とも料理役割を分担することで、料理を作ることの大変さを二人で認識し、互いに対する理解が深まるだけでなく、互いの負担を減らすために有意義ではないかと考えられる。

表 3-3 夫妻の組合せでみる料理作りに対する態度 (大変かどうか)：主に妻が料理担当の世帯 (組)

妻 \ 夫	(妻が) 肯定	(妻が) 中立	(妻が) 否定
肯定	60	1	1
中立	2	0	0
否定	2	0	0

表 3-4 夫妻の組合せでみる料理作りに対する態度 (大変かどうか)：主に夫が料理担当の世帯 (組)

妻 \ 夫	肯定	中立	否定
(夫が) 肯定	5	5	0
(夫が) 中立	1	0	0
(夫が) 否定	1	0	0

（４）料理役割の分担と分担をめぐる交渉と調整

この節では、料理役割の分担や調整意欲の有無、調整する時の方向性、調理分担について交渉の状況について整理する。

１）料理分担の決定要因

料理分担を決める最大な要因について、時間の有無と得手不得手を取り上げた回答者が最も多い。図 4-1 は、男女で決定要因を示している。これは前に整理した調理時間と調理時間に対する見積、そして料理の質に対する夫妻双方の考え方も関連している。調理時間を長く見積もるほど、自分に時間がないから料理を担当しなくなる。また、料理の質を高く求めるほど、自分がそこまでできないという理由で料理役割を担わなくなる。この他、子どもに重度の食物アレルギーがあるため高度な専門知識で調理する必要性や、左利き・右利きの関係で夫妻間の交替が難しくなるといった要因も取り上げられている。

一方、夫妻の回答を組合せてみると、夫と妻が同じ要因を選んだのは 51 組（48%）で、一致率が半分未満である。このように夫妻間の認識に不一致があることは、じっくりした話し合いで料理分担が決められているわけではない可能性を示している。また、主に見られる不一致のパターンは、夫が時間の有無を最大な要因として考えているものの、妻は得手不得手（15 組・14%）もしくは妻・母役割（7 組・7%）で解釈し、もしくは妻が時間の有無で夫が得手不得手で説明する（8 組・8%）組合せである。ただ、夫と妻はそれぞれ各規

定要因をどのように捉えているか、また子どもの年齢など家庭のライフステージによって規定要因が変わる可能性について、さらなる検討が必要である。

２）料理分担を調整する意欲と調整の方向性

調査する時点の料理分担を調整する意欲について、分担状況と照らし合わせながら図 4-2 で示していく。

図 4-2 が示したように、分担の現状がどうであれ、夫妻とも分担を変えようという調整の意欲が一致する世帯が少数派である。これは料理分担がある程度安定した形で行われると説明できる一方、これ以上の分担調整が時間や調理能力等を鑑みて不可能であると判断され、調整の可能性が小さいことも示している。このうち、妻が主に料理を担当する場合、調整の意欲が高くなり、現状に対する不満が考えられる。一方、夫が主に料理を担当する場合、もしくは夫妻ともよく料理をしていると自認する場合、現状維持で夫妻が一致する割合が高くなる。

調整の意欲を示した回答者（男性 38 名、女性 39 名）に、調整の方向性を確認したところ、自分がより多く負担したいと答えた夫は 23 名（61%）、夫に多く負担してもらいたいと答えた妻は 29 名（74%）と、全体的に夫のさらなる料理分担が期待される様子である。

３）交渉の有無と頻度

最後は役割分担や調整をするため、夫と妻が料理分担について話し合いの有無と頻度を整理す

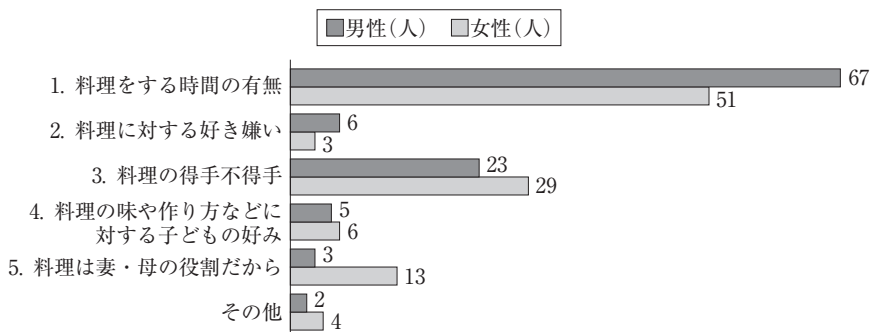


図 4-1 料理分担の最大の決定要因

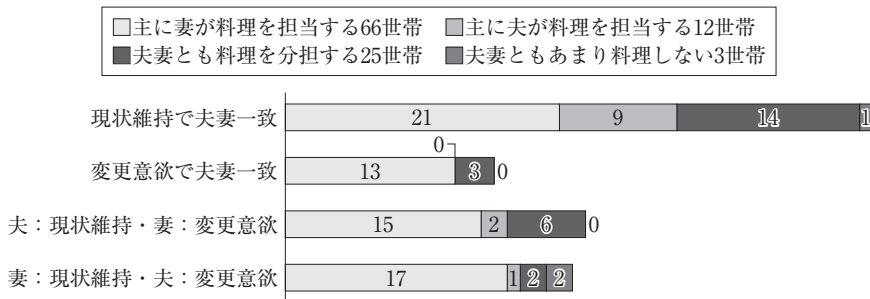


図 4-2 夫妻組合せでみる料理分担を調整する意欲

注：設問では、変更意欲がある場合にその程度を「少々変更」、「大幅変更」、「変更したいが難しい」で聞いているが、このいずれも変更意欲ありとしてカウントする。

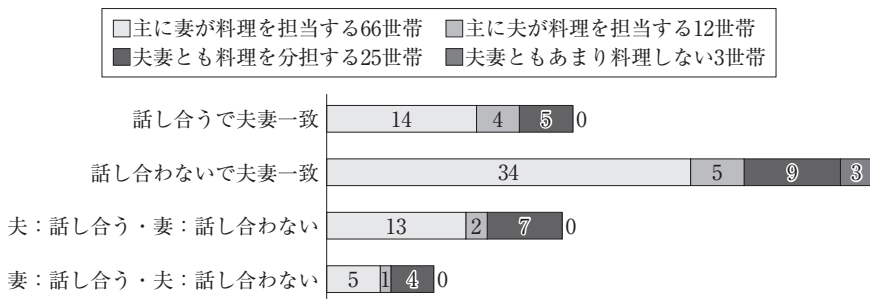


図 4-3 夫妻組合せでみる話し合いの有無

る。よく・たまに話し合う場合は「話し合う」とみなし、あまり・まったく話し合わない場合は「話し合わない」とみなす。

結果は図 4-3 で示したように、料理分担についてあまり話し合わない夫妻が多く、夫妻とも話し合っていると報告したのは、2-3 割にとどまっている。

なお、主に妻が料理を担当する世帯、そして夫妻とも料理をよく分担していると自認する世帯で、夫が「よく・たまに」話し合うと回答しながら、妻が「あまり・全く」話し合わないと、夫妻の回答が不一致している世帯の数が多い。これは、夫が話し合い・交渉しているつもりであっても、妻にとっては話にならないと思われる可能性を示しているが、この点については、さらなる調査・検討が必要である。

4. まとめ

本稿は、夫妻で回答してくれた 106 組のペア

データを用い、料理役割の分担と遂行について分析した。基本属性からみて今回の分析対象は、共働きで、第 1 子の年齢が 12 歳以下、子どもの人数が 3 人未満、そして核家族の形で暮らしている世帯が最も多い。調査は料理役割を取り上げ、分担・遂行・調整に対して夫と妻はそれぞれどのように捉えているかを調べ、本稿は夫妻間ではどこに、どのような不一致があるかを中心にまとめた。

料理役割の分担状況について、妻（女性）を中心に役割が遂行される一方、夫中心の 12 組と夫妻とも自分がよく分担していると自認する 25 組がいる。料理役割を項目別でみると、ほとんど夫が担当し、妻にはあまりやらせていないのはやはり食器の片付け・洗浄である。妻は献立を考えるとから買いもの、調理するまでの一連の作業、そして日常の調理家電や器具の管理とメンテナンスを中心的に担うことが多い。平日と休日の三食の用意がどのように分担されるかについて、夫と妻の認識に不一致が見られる。このなかで平日夕

食の分担が最も夫妻双方に共通して認識され、分担が明確になっていることが分かる。このような知見を通して、普段夫妻の項目別で役割を分担する仕方により、役割分担をどれぐらい互換・交替できるかの検討がさらに深まる。そして分担の状況に対して夫妻それぞれが異なる基準で判断・解釈している可能性が示され、今後さらなる調査の必要性が見えてきた。

料理役割の量と質についても、夫と妻の考え方が異なっている。夫を中心に遂行されている食器の洗浄・片付けは、料理役割として認識されていない可能性がある。これにより、夫（男性）の役割分担に対する評価が低くなるかもしれない。また、手料理に対する選好や冷凍・レトルト食品に対する「手抜き」意識は、女性が男性より強いという従来の調査も示した知見に加え、本調査は料理を分担することの有無と料理の質に対する要求とのつながりを示した。この点については今後、さらなる分析で相関関係の内実を確認する。また、実際の調理時間について、普段あまり調理に関わらない人が、実際の調理時間を高く見積もる可能性が見えてきた。この誤った見積もりにより、「料理を分担したいが自分にはそれほどの時間がない」と判断して料理役割の分担を控えるかもしれない。

料理役割を担うことに対する考えについて、料理を分担する夫は、自分の趣味でやっている可能性が大きいものに対して、妻たちは嫌いであってもやらざるを得ない可能性が見えた。主に妻が料理を担当する世帯で、妻の大変さは夫妻とも認識されている一方、夫が料理を担当する時の大変さを、妻が高く見積もっている様子が見られる。

料理役割分担と分担をめぐる交渉と調整に関して、分担の最大な規定要因は時間の有無と得手不得手があげられているものの、夫妻の回答を組み合わせると一致率が50%以下である。夫妻が必ずしも交渉して合意を得たうえで役割分担を決めているわけではないことが推測できる。また、全体的に料理役割の分担は妻に偏っているものの、夫妻とも分担を調整しようとする世帯が少数派で

ある。調整の意欲を示した回答のうち、夫がより多く分担する方向で調整したいと考えている者が多い。料理役割の分担について夫妻で話し合わない世帯が48%である。夫妻のうち片方が話し合うと報告し、相手が話し合わないと報告する世帯が3分の1である。これは片方が交渉しているつもりで、相手にとって話し合いになっていないと思われる可能性がある。

以上のような知見は、本調査の結果に基づいて見えてきた初歩的な結果である。いずれもさらに調査結果を分析し、またはその他の調査を追加して議論を深める必要がある。ただし、こうした基礎作業を通して、夫妻の役割分担がどのような土台で議論されるかがより明確になる。夫妻で柔軟に調整できる役割分担をめぐる議論の材料として、調査で得た知見を活かしていきたい。

注

- 1) 本研究は若手研究「家事分担をめぐる調整：未就学の第1子を持つ夫妻のペアデータを用いた実証研究」（課題番号21K13413 研究代表者：孫詩彥）の一部である。

資料

「料理役割の分担と遂行に関する調査」調査票設問

1. あなたとご家族の基本状況について

問1 あなたの性別を教えてください。

問2 現在、あなたと一緒に住んでいる方をすべて選んでください。（二世帯住宅の場合も「一緒に住む」に該当します）

問3 お子さんの人数と一番上の子どもの年齢を教えてください。

問4 現在、あなたの勤務状況について一番近いものを選んでください。

2. あなたとパートナーの料理役割の分担について

問5 平日の三食について、あなたとパートナーとの分担状況に最も近いものに○をつけてください。

問6 休日の三食について、あなたとパートナーとの分担状況に最も近いものに○をつけてください。

問7 お子さんには現在、離乳食など、大人と別にして食事を用意していますか。

(問7で「1. はい」を選んだ方は問8を答えてください)

問8 大人と別に用意するお子さんの食事はあなたとパートナーの間でどのように分担していますか。
現在の分担状況に一番近いものを選んでください。

問9 以下の項目で、あなたが「料理役割」に含まれると思う作業をすべて選んでください。

問10 以下の項目で、あなたがいつもやっていることをすべて選んでください。

3. 料理に対する認識や考えについて

問11 あなたとパートナーの間でいうと、あなたは自分が料理役割をよく分担してやっているほうだと思いますか。

(問11で「1」「2」を選んだ方は問12～問16をお答えください)

問12 あなたは料理を作ることが好きですか。

問13 毎日一定の時間をかけて料理を作るとは、たいへんだと思いますか。

問14 家事や仕事などで忙しい日でも、出来合いのお惣菜や弁当より、家庭内で作る手料理のほうが好ましいと思いますか。

問15 冷凍食品、レトルト食品などが家庭での食事に出すことを「手抜き」だと思いますか。

問16 あなたは、平日の夜、ご自宅でいつも食べているような家族全員分の食事を用意するために、おおよそどれぐらい時間をかけていますか。

(問11で「3」「4」を選んだ方は問17～問21をお答えください)

問17 あなたは、あなたのパートナーが料理を作ることが好きだと思っていますか。

問18 あなたのパートナーが毎日一定の時間をかけ

て料理を作ることについて、あなたはたいへんだと思いますか。

問19 パートナーが家事や仕事などで忙しい日でも、出来合いのお惣菜や弁当より、家庭内で作る手料理のほうが好ましいと思いますか。

問20 冷凍食品、レトルト食品などが家庭での食事が出されたら「手抜き」だと思いますか。

問21 平日の夜、ご自宅でいつも食べているような家族全員分の食事を、あなたのパートナーが用意するために、おおよそどれぐらい時間がかかっていると思いますか。

4. 料理分担の調整と交渉

問22 料理について、あなたとパートナー分担を決める1番大きな要因を選んでください。

問23 現在の料理分担を変えたいと思いますか。

(問23で「変更意欲あり」の方は答えてください)

問24 現在の料理分担をどのような方向に向けて変えたいと思いますか。

問25 料理分担についてパートナーと話し合っていますか。

参考文献

孫詩彥 (2020)『権力の観点から見る夫妻の役割分担：未就学の第1子を持つ共働き家庭に着目して』北海道大学大学院教育学院博士論文

孫詩彥 (2022)「夫妻の役割分担はなぜ調整しにくいのか？ 予期せぬ出来事をめぐる夫と妻の捉え方に着目して」『第18回助成事業研究論文集』：14-29

田中慶子 (2021)「ダイアド・データによる家族研究の可能性」『家族社会学研究』33(1)：57-62

(北海道大学創成研究機構・
大学院教育学研究院 特任助教)